

(19) 日本国特許庁 (J.P.)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-222121

(P2000-222121A)

(43) 公開日 平成12年8月11日(2000.8.11)

(51) Int.Cl.

G 0 6 F 3/033

識別記号

3 4 0

F I

G 0 6 F 3/033

テーム(参考)

3 4 0 C 5 B 0 8 7

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-26333

(22) 出願日 平成11年2月3日(1999.2.3)

(71) 出願人 000186566

小林記録紙株式会社

愛知県刈谷市小垣江町北高根115番地

(72) 発明者 小川 純生

愛知県刈谷市小垣江町北高根115番地 小

林記録紙株式会社内

(74) 代理人 100069431

弁理士 和田 成則

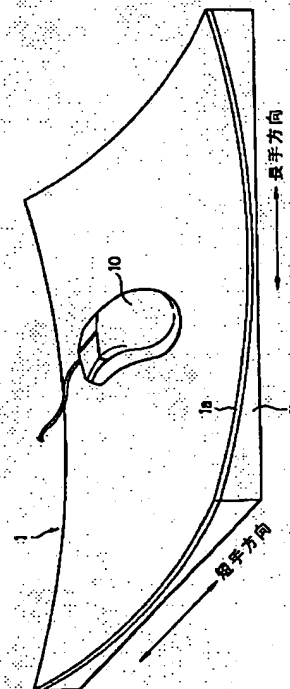
Fターム(参考) 5B087 AA09 AC15 AE07 BB18 BB20

(54) 【発明の名称】 マウスパッド

(57) 【要約】

【課題】 長期間使用したマウスであっても、そのボールの回転をスムーズに行なわせることができ、その結果、パーソナルコンピュータ等の表示画面に表示されているカーソルの移動性を良くしたマウスパッドを提供する。

【解決手段】 マウスパッド1は、マウス10が移動するパッドであって、マウス10を移動させる面の形状が、水平方向の長手方向に対して凹形であるとともに、垂直方向の短手方向に対しても凹形であるように形成されている。このマウスパッド1は、マウス10を長期間移動させるため、それなりの強度を有する材質からなる合成樹脂部1aと、マウス10に対するクッション機能を有するラバー部1bとから構成されている。合成樹脂部1aには、ポリプロピレン、ポリエステル等の合成樹脂が用いられ、また、ラバー部1bにはネオプレンゴムが用いられている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 パーソナルコンピュータ等のカーソル移動等を行うマウスのマウスパッドにおいて、

上記マウスパッドにおけるマウスの移動面の形状が、凹形であることを特徴とするマウスパッド。

【請求項2】 パーソナルコンピュータ等のカーソル移動等を行うマウスのマウスパッドにおいて、

上記マウスパッドにおけるマウスの移動面の形状が、長手方向に対して凹形であるとともに、短手方向に対しても凹形であることを特徴とするマウスパッド。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はパーソナルコンピュータ等のカーソル移動等を行うマウスのマウスパッドに関し、特にマウスを長期間使用してもマウスのボールの回転をスムーズに行ない得るようにしたものである。

【0002】

【従来の技術】 近年、MMI (Man-Machine Interface) の要望からマウスが使用されている。

【0003】 このマウス10は、図4に示すように、その底部の略中央部に円孔Aを有しており、この円孔Aからボール11が出ており、このボール11を回転させることにより、パーソナルコンピュータ等の表示画面に表示されているカーソルの位置を変更させるようになっている。

【0004】 また、マウス10は、左右に有するクリックボタン12を用いて、パーソナルコンピュータ等の表示画面に表示されているアイコンや所定事項をクリックするようになっている。

【0005】 このマウス10は、一般的にはデスク上に直接置いて使用されずに、マウスパッド1上で使用されている。

【0006】 マウスパッド1は、図5に示すように、所定の大きさを有しており、かつ、マウス10の移動する面が平面で構成されている。

【0007】 従って、図4に示すように、マウスパッド1に置かれたマウス10は、そのボールがマウスパッド1と点接触している状態になっている。

【0008】 なお、マウスパッド1は、マウス10のボール11の回転を良くするために、その表面材質として様々な材質のものが使用されている。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】 マウス10は、長期間使用されると、内部に埃が溜まりボール11の回転をスムーズに行なうことができなくなるという問題点があった。

【0010】 また、マウス10は、長期間使用されると、ボール11の表面に油脂が付着するとともに、マウスパッド1の表面にも油脂が付着するので、上述したように、マウスパッド1と点接触でしかないうえに、更に

ボール11とパッド1との摩擦抵抗が減少し、ボール11の回転をスムーズに行なうことができなくなるという問題点があった。

【0011】 従って、マウス10のボール11と連動するパーソナルコンピュータの表示画面のカーソルの移動性も悪くなる。

【0012】 そこで、本発明は上述の問題点に鑑み、長期間使用したマウスであっても、ボールの回転をスムーズに行なうことができ、その結果、パーソナルコンピュータ等の表示画面に表示されているカーソルの移動性を良くしたマウスパッドを提供することを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】 上述の目的を達成するために、請求項1記載の発明は、パーソナルコンピュータ等のカーソル移動等を行うマウスのマウスパッドにおいて、上記マウスパッドにおけるマウスの移動面の形状が、凹形であるようにする。

【0014】 特に、パーソナルコンピュータ等のカーソル移動等を行うマウスのマウスパッドにおいて、上記マウスパッドにおけるマウスの移動面の形状が、長手方向に対して凹形であるようにする。

【0015】 請求項2記載の発明は、パーソナルコンピュータ等のカーソル移動等を行うマウスのマウスパッドにおいて、上記マウスパッドにおけるマウスの移動面の形状が、長手方向に対して凹形であるとともに、短手方向に対しても凹形であるようにする。

【0016】 本発明では、マウスの移動面の形状が凹形であるため、マウスのボールに対する接触面積を増加させて摩擦抵抗を高め、長期間使用したマウスであっても、そのボールの回転をスムーズに行わせることができる。

【0017】 特に、マウスの移動面の形状が長手方向に対して凹形であるとともに、短手方向に対しても凹形であるため、どの方向に対しても、マウスのボールに対する接触面積を増加させて摩擦抵抗を高め、すべての方向に対してマウスのボールの回転をスムーズに行わせることができる。

【0018】

【発明の実施の形態】 以下、本発明に係るマウスパッドの実施形態を、図面を参照して説明する。

【0019】 <第1実施形態> 図1は本発明に係るマウスパッドの第1実施形態の概略構成を示す斜視図である。

【0020】 この実施形態のマウスパッド1は、図1に示すように、マウス10が移動するパッドであって、マウス10の移動面の形状が、水平方向を長手方向としたとき、この長手方向に対して凹形に形成されている。

【0021】 このマウスパッド1は、マウス10を長期間移動させるため、それなりの強度を有する材質からなる合成樹脂部1aと、マウス10に対するクッション機

能を有するラバー部1bとから構成されている。

【0022】合成樹脂部1aには、ポリプロピレン、ポリエステル等の合成樹脂が用いられ、また、ラバー部1bにはネオプレンゴムが用いられている。

【0023】この実施形態のマウスパッド1では、マウス10の移動面の形状が長手方向において凹形であるため、図2に示すように、マウス10のボール11との接触面積を増加させて摩擦抵抗を高め、長期間使用したマウス10であっても、ボール11の回転をスムーズに行わせることができる。

【0024】従って、マウス10のボール11と連動するパーソナルコンピュータ等の表示画面に表示されたカーソルの移動性を良くすることができる。

【0025】＜第2実施形態＞図3は本発明に係るマウスパッドの第2実施形態の概略構成を示す斜視図である。

【0026】この実施形態のマウスパッド1は、図3に示すように、マウス10が移動するパッドであって、マウス10を移動させる面の形状が、水平方向の長手方向に対して凹形であるとともに、垂直方向の短手方向に対しても凹形であるように形成されている。

【0027】このマウスパッド1は、第1実施形態のマウスパッドと同様、マウス10を長期間移動させるため、それなりの強度を有する材質からなる合成樹脂部1aと、マウス10に対するクッション機能を有するラバー部1bとから構成されている。

【0028】合成樹脂部1aには、ポリプロピレン、ポリエステル等の合成樹脂が用いられ、また、ラバー部1bにはネオプレン（登録商標）ゴムが用いられている。

【0029】この実施形態のマウスパッド1では、マウス10を移動させる面の形状が、長手方向に対して凹形であるとともに、短手方向に対しても凹形であるため、第1実施形態のマウスパッド1よりも、マウス10のボール11との接触面積を増加させて摩擦抵抗を高めることができる。

【0030】従って、この実施形態のマウスパッド1は、長期間使用したマウス10であっても、第1実施形態のマウスパッド1以上、ボール11の回転をスムーズ

に行わせることができ、このため、マウス10のボールと連動するパーソナルコンピュータ等の表示画面に表示されたカーソルの移動を、実施形態1のマウスパッド1よりも一層良くすることができる。

【0031】

【発明の効果】以上、本発明によれば、マウスの移動面の形状が凹形であるため、マウスのボールに対する接触面積を増加させて摩擦抵抗を高め、長期間使用したマウスであっても、そのボールの回転をスムーズに行わせることができる。

【0032】従って、マウスのボールと連動するパーソナルコンピュータ等の表示画面に表示されているカーソルの移動を良くすることができる。

【0033】特に、マウスの移動面の形状を長手方向に対して凹形であるとともに、短手方向に対しても凹形であるようにしたことにより、マウスのボールに対する接触面積を増加させて摩擦抵抗を高め、長期間使用したマウスであっても、そのボールの回転をどの方向に対してもスムーズに行わせることができる。

【0034】従って、マウスのボールと連動するパーソナルコンピュータ等の表示画面に表示されたカーソルの移動が、水平方向および垂直方向ともに良くなることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るマウスパッドの第1実施形態の概略構成を示す斜視図。

【図2】第1実施形態のマウスパッドとマウスのボールとの接触状態を説明する図。

【図3】本発明に係るマウスパッドの第2実施形態の概略構成を示す斜視図。

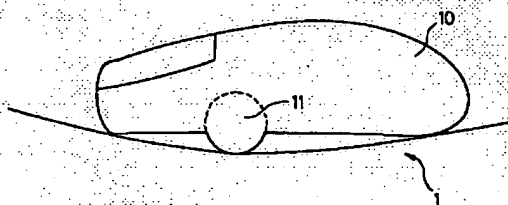
【図4】マウスの概略構成を示す概略図。

【図5】従来のマウスパッドの概略構成を示す斜視図。

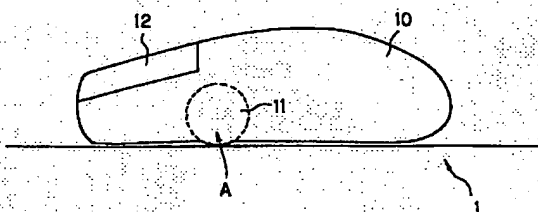
【符号の説明】

- 1 マウスパッド
- 1a 合成樹脂部
- 1b ラバー部
- 10 マウス
- 11 ボール

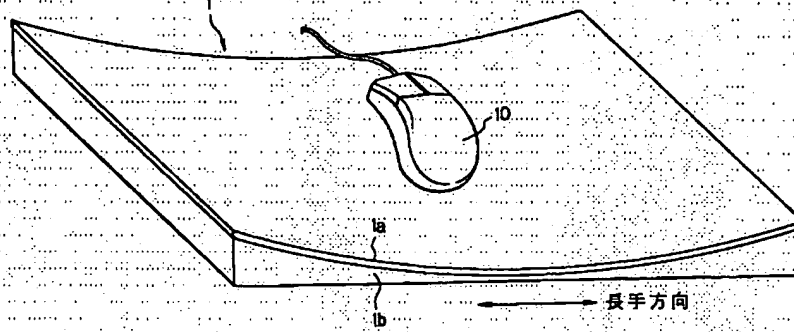
【図2】



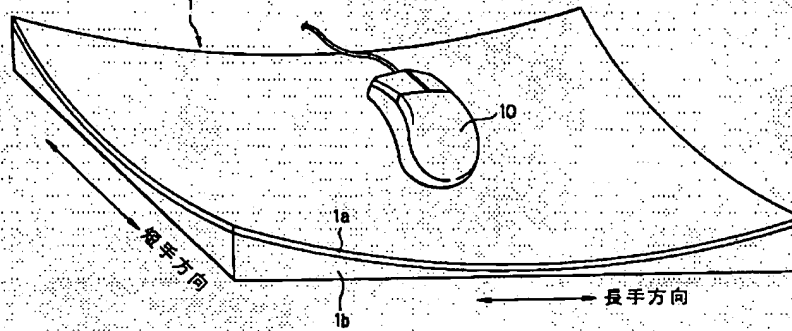
【図4】



【図1】



【図3】



【図5】

